

草の根通信

Vol.75 (2013年6月17日発行)



出雲神楽

P10 ほっとINFORMATION

- ・与謝野CIE副会長、マルヤマCIE-US理事が「春の叙勲」で受章!
- ・楨原CIE理事とレンジャーズ、ダラスで受賞!
- ・ビビる大木さん、ジョン万資料館名誉館長に!

P12 ニュース・事務局だより

- ・ジョン・ハウランド号の航海日誌を小沢会長がCIEに寄贈、高知で展示も
- ・新専務理事から挨拶

P12 協賛企業一覧

平成24年度寄附協賛企業一覧

次回のサミット大会は
島根県で2013/7/2-7/8に開催!



P08

映画脚本「Manjiro & William」

ジョン万次郎の生涯」が出版

寄稿 映画プロデューサー 佐藤ヒデアキ



P06

マーギー・プロイス×北代淳二 特別対談

マーギー・プロイス「ジョン万次郎海を渡ったサムライ魂」著者
北代淳二 CIE 評議員



P04

米国各地でしまね大会参加者募集活動

寄稿 ダイアン・モンゴメリ
ダラス・フォートワース日米協会



P03

CIE、公益財団法人へ移行!

新体制の紹介



いつも新しい空を目指して。

ANA

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金) www.ana.co.jp

CIE、公益財団法人へ移行！

今年4月1日、CIEは公益財団法人への移行を果たしました。

内閣府に設置された「公益認定等委員会」により、CIEは公益に資する財団であると認められ、去る3月26日には内閣総理大臣より「公益認定書」を拝受しました。この認定書を添え、4月1日に法務局において登記手続きを済ませたことにより、正式に公益財団法人となったものです。

公益財団法人への移行は、単に喜ばしいだけではなく、CIEに対してご寄付や賛助会費をくださっている企業や個人の皆様に、税制上の優遇を引き続き受けていただくことができます。また、6月の評議員会後には、個人の賛助会員や寄付者の皆様のために、一步踏み込んだ税制上の優遇措置である「税額控除」の資格を得るための申請を予定しています。

公益認定、また「税額控除」の資格を得ることにより、幅広い皆様から支援を受けていくことを目指します。

なお、4月1日に公益財団法人として新たなスタートを切ったことにより、役員体制も変わりました。(下記参照) 新しい定款につきましては、ホームページに掲載していますので、どうぞご覧ください。



公益認定等委員会より「公益認定書」を受領



新体制の紹介

役員

会長	小沢 一郎	衆議院議員
副会長	与謝野 馨	前衆議院議員
理事長	渡辺 泰造	元2005年日本国際博覧会日本政府代表 元在インドネシア大使
専務理事	吉國 譲治	三菱商事株式会社
理事	小沢 一郎	衆議院議員
理事	平 辰	株式会社大庄 代表取締役社長
理事	田口 俊明	トヨタ自動車株式会社 顧問
理事	野村 吉三郎	全日本空輸株式会社 特別顧問
理事	波多野 敬雄	学校法人学習院長・理事長 元外務省国際連合日本政府代表部特命全権大使
理事	楨原 稔	三菱商事株式会社 特別顧問
理事	三輪 信昭	株式会社兼美 代表取締役

監事

監事	金井 萬造	株式会社地域計画建築研究所 取締役会長
----	-------	---------------------

評議員

石毛 博行	日本貿易振興機構(ジェトロ) 理事長
小竹 暢隆	名古屋工業大学 大学院工学研究科 産業戦略工学専攻 教授
北代 淳二	ジョン万次郎研究家 (TBSインターナショナル 元社長)
高島 肇久	株式会社日本国際放送 特別専門委員
中濱 京	中濱万次郎五代目
平田 潔	東京都学校法人湖南学園 早稲田ゼミナール 非常勤講師
平野 貞夫	有限会社土佐南学会 代表取締役

顧問

勝俣 恒久	松尾 憲治	魚岸 志乃富	川澄 哲夫
日下部 吉彦	佐藤 久美	高見澤 孟	土田 和夫
中山 貴恵	日詰 一幸	丸山 征郎	丸山 優

(平成25年4月現在)

米国各地でしまね大会参加者募集活動

しまね大会参加者を
テキサスで募集！ダラス・フォートワース
日米協会 (JASDFW) の取り組み

昨年のサミット大会を共催したダラス・フォートワース日米協会は、今年の「しまね大会」の参加者募集を現地で全面的にサポート。「しまね大会プロモーションチーム」を組織し、さまざまな機会を通じて参加者を募集してきました。その「しまね大会プロモーションチーム」のボランティアの一人、ダイアン・モンゴメリさんに、同協会の取り組みについて寄稿してもらいました。



寄稿 ダラス・フォートワース日米協会 ダイアン・モンゴメリ

神話が今も息づく地へ旅し、日本文化の美しさ、その優しさに浸りたいと思わない人はいないでしょう。

ダラス・フォートワース日米協会 (JASDFW) では、今年 7 月 2 日から 8 日まで、島根県全域で開催される日米草の根交流サミット大会への参加者募集のために、しまねサミットの広報チームを結成しました。

昨年のサミット大会はノース・テキサスの 15 市で開催されましたが、チームの結成と広報活動は、その「大成功」の勢いを継続させるためでもあります。そして現在、このテキサスの地で、今年のしまね大会のプロモーション活動に勤しんでいるところです。



ダラス市内の大学で「しまねサミット」のプレゼンテーションをするイレーンさん

JASDFW のアンナ・マックファーランド事務局長は、「草の根交流サミットは、初訪日の方はもとより、頻繁に日本へ旅行される方にとっても、真の日本を体験できる素晴らしい方法です。私たちとお付合いのある方々に、この特別な機会をぜひとも逃すことのないようおすすめしています。旅費も納得できる設定ですし、年齢を問わず、日本への特別な知識も日本語の素養も不要です。参加者は、日本で新しい友人を作ることが出来、通常の旅行や、ビジネス上の出張ではとうてい得られない、大変ユニークな経験を得ることが出来ます」と、述べています。

JASDFW では、しまねサミット大会に関する広報資料を作成し、既に 6 回の発表会をダラス市、フォートワース市、さらにはもっと南のオースチン市周辺の大学や、その他の施設で開催してきました。JASDFW 理事で日本文化の大ファンであるイレーン・ブローニングさんは、ご自身の最近の島根旅行で撮影した写真や経験を、しまね大会説明会に参加した方々に紹介しています。

米国各地でしまね大会参加者募集活動



餅つき大会で、しまねサミットを紹介する
日米協会のマックファーランド事務局長（左）

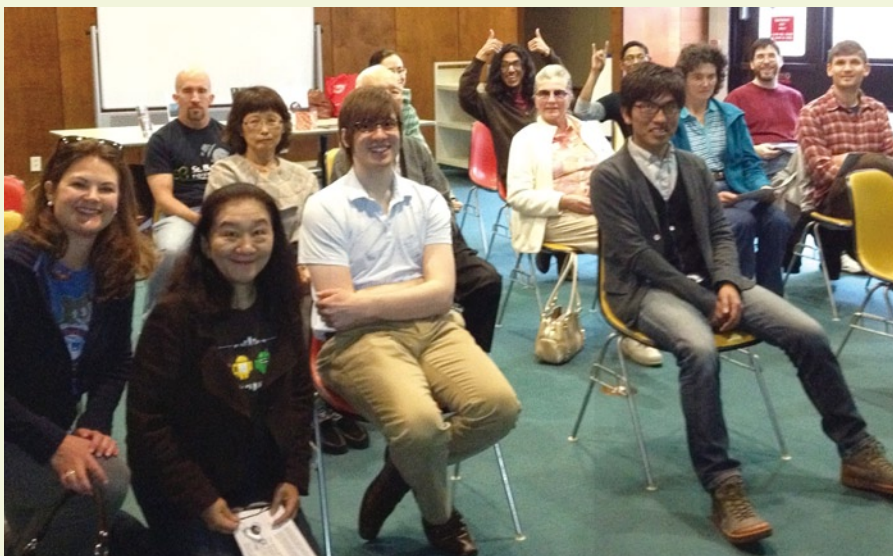
その説明会で、イレーンさんは次のように話しています。「私は長いこと日本に住み、各地を旅行しましたが、残念ながら出雲や松江を訪ねたことはありませんでした。でも、昨年12月にその機会を得て、私の長年の夢が実現しました。しまね大会の実行委員会の皆様のおかげで、いくつものサミット開催予定地を見ることが出来ましたし、この地に今も伝承されている日本古来の文化を心から楽しむことが出来ました。しまねサミット大会の広報活動をすることで、充足感を得ていますし、私の撮った写真や経験をこんなにたくさんの方々とは分かち合えることも楽しんでいます。」

JASDFW が主催する「餅つき大会」と、「お花見会」は、理事やスタッフ、ボランティアを対象とした草の根サミットの広報にも、とても有効でした。「餅つき大会」では、試食コーナーのすぐそばにサミット大会の資料を並べたことにより、多くの参加者たちがサミット大会の情報を目にする事が出来ました。

こうした催しのほかにも、地方紙に記事として紹介してもらったり、チラシ、ホームページ、フェイスブックなども利用し、より広範な人々に伝わるよう工夫しました。加えて、JASDFW の職員は、テキサス在住者からの参加申込み受け、質問への回答など、情報センター的な役割も担いました。

説明会で、前述のイレーンさんは「昨年 末の島根への旅では、実行委員会の皆様の、しまねサミット大会へ向けた情熱と、心のこもった歓待ぶりに本当に心が温められました。私は、アメリカから参加される方々が、素晴らしい経験をされ、新しい友人を作られることを、確信しています」と強調しました。

こうした成果として、生涯で最高の経験が出来るサミット大会に、多くの方々が参加申し込みをされたことを、喜びを持ってご報告いたします。



オースティンで行われた「しまね大会説明会」に集まった人たち

ダラス・フォートワース日米協会 (JASDFW) について

JASDFWは、テキサス州北部のダラス・フォートワース地域において、文化、教育、交流プログラムを通じて、日米両国間の相互理解を深めるため、43年の歴史を持って貢献しています。



マーギー・プロイス

「ジョン万次郎 海を渡ったサムライ魂」著者

×
北代淳二
CIE評議員

特別対談

「ジョン万次郎 海を渡ったサムライ魂」(原書名: Heart of a Samurai) を著されたマーギー・プロイスさんが、今年5月、出版社である集英社から招かれて来日されました。滞在中は、万次郎の故郷である高知、また万次郎が帰国後に過ごした邸宅跡地に建つ東京都江東区の小学校などを訪問。また、銀座の書店「教文館ナルニア国」では翻訳された金原瑞人さんと対談されるなど、忙しい日程をこなされました。マーギーさんは、本を書くにあたって万次郎研究家の北代淳二 C I E 評議員が高知の万次郎研究者と共訳した「Drifting Toward The Southeast (漂異紀略)」をバイブルのように読まれたそうです。お忙しいスケジュールの中、今号の「草の根通信」のために、北代 C I E 評議員とマーギーさんにご対談いただきました。

北代 万次郎について知ったのはいつ頃ですか？ また、どうして万次郎を小説にしようと思われたのでしょうか。

マーギー 12年ほど前、「平和の鐘」について調べている時に万次郎のことを知りました(※「平和の鐘」については草の根通信70号を参照)。その後、友人が「シップレック」という、ローダ・ブルームバーグさんが書いた万次郎のノンフィクションの絵本を送ってきてくれました。万次郎のことはずっととても気になって、色々調べたりはしていたのですが、英語の資料はかなり限られていました。すぐにも、万次郎を題材として物語を書きたかったのですが、取りかかるまでにも、取りかかってからもずいぶんと時間がかかってしまいました。それに、最初は数ページの絵本形式の物語のつもりが、次第にそれでは収まりきれないと気づき、結果、初めての小説を書くという大作業になりました。



北代 読んでみて、捕鯨船に救われてアメリカに渡って成長する過程での万次郎の心の変化が、とても上手に書かれていると思いました。ユニークだったのは、マーギーさんがサムライを描写しているところですね。サムライの行動規範をよく表現していらっしゃると感じましたが、「海を渡ったサムライ魂」という、その着想はどこから来たのでしょうか？

マーギー サムライについては、「葉隠 (はがくれ)」も含めて手あたり次第にたくさんの本を読みリサーチしました。私が書こうとしていたのは、若者向けの物語でしたから、万次郎には何かとてつもない夢、不可能だと思われるような夢を持って欲しいと思いました。そして、数々の出来事が起こり、本人の知恵や努力、冒険の末についてはその目標、夢を実現するという物語です。そういう中で、万次郎がサムライになりたかったという設定にたどり着きました。

北代 今まで、アメリカでは随分と若い方々にこの本についてのお話をされてきているそうですね。

マーギー おかげさまで、各地で講演をさせていただいています。アメリカでは、万次郎の話は「遠い異国の少年の冒険物語」です。でも、子ども達は私の話を聞く時にはすでに私の本を読んでいて、万次郎を自分に重ねて考えたり感じたりしているようです。

北代 アメリカは、日本とは歴史も文化も言葉も違うのに、どうやって自分と重ねて考えるのでしょうか？

マーギー・プロイス × 北代淳二 特別対談

マーギー アメリカには「移民の国」という背景があるからだと思います。万次郎はアメリカではじめて学校に通います。そこでは、いじわるな子どももいます。アメリカの子ども達も、ヒスパニックやアフリカ系、アジア系など、様々な背景を持っていて、移民してきたばかりの子どもは言葉もうまくしゃべれ

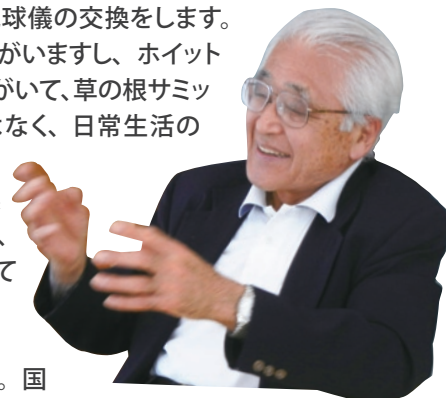


ません。大勢の中で、なんとなく自分だけがなじんでいないと感じたりします。いじめにあうという経験もあるでしょう。それは、万次郎と同じような経験なのです。子ども達からの感想を読むと、「自分も同じだった。でも、この本を読んで万次郎のように立ち上がろうという勇気をもらった。目が開けた瞬間があった」ということが書かれていたりします。

北代 この本を読むと、人種などの違いがあっても、人と人が友情を築くことができるということがよく伝わってきます。まさに、CIEの活動もそうです。マーギーさんは、2010年のサンフランシスコ・ベイエリアで開催された草の根交流サミット大会にいらっしゃいましたが、この精神は私たちの大会にも受け継がれているとお感じになりましたか？

マーギー ええ、そう思いました。私は学校などでお話をする時にはいつも、「皆さんに会いに来たのは、170年前に生まれた友情のお話をするためです。その絆があまりにも強かったため、いまだにその友情は続いています」と伝えることにしています。そして、万次郎と船長を記念したイベントが毎年行われていること。そして、こういう友情をつくることは、みんなができるのだと。第二次世界大戦がはじまった時、ホイットフィールド家の4代目の方は海軍におられたそうですが、日本に銃口を向けたくないという理由から、沿岸警備隊に転籍を申し出たと聞きました。もし、アメリカの人ひとりひとりが、日本人の友人をひとりつくることができたら、あるいは他の国にも友達がいれば、互いに傷つけたいとはけして思わないはずだし、戦争も起こらないはず。だからこそ、草の根の交流は大事なのです。世界各地に旅をして、その人たちと出会うことは重要だと思っています。

北代 日米草の根交流サミットでは、シンボルとして両家の間で地球儀の交換をします。中濱家にはもう6代目がいますし、ホイットフィールド家は7代目がいて、草の根サミットの時に会うだけではなく、日常生活のなかでも電子メールなどを通して情報交換をしています。これは、その友情が今も続いている証です。



マーギー そうですね。国境を越えた友情が170年以上も続くというのはギネスブック級ですよ！ アメリカでも、このことをお伝えすると皆さんがびっくりして感動されます。

北代 最後に、マーギーさんの本の成功を心からお祝い申し上げたいと思います。この本は、日本とアメリカだけではなく、他国でも出版される計画があるそうですね。

マーギー はい、イタリア・中国・トルコでの出版が決まっています。英語版の方は、アメリカだけではなく、英語を話す他の国々でも読まれていると思います。

北代 たくさんの方々を読んでいただくことを願っています。今日はありがとうございました。

※お二人の話は、その後も万次郎のNHK大河ドラマ化や映画化に向けた日本の取組み、「白鯨」や捕鯨など、尽きることがありませんでした。





映画脚本

「Manjiro&William

ジョン万次郎の生涯」が

出版されました!

万次郎の生涯を映画化できないか、そう考えた映画人達がありました。壮大な夢のようでもあります、すでに日米の一流の脚本家らにより脚本は完成しています。今回、異例なこととして映画化よりも早く、この脚本が出版されました。映画化と脚本出版に奔走されている映画プロデューサーの佐藤ヒデアキさんに寄稿いただきました。

万次郎の生涯の映画化は私のライフワーク

プロデューサー・佐藤ヒデアキ

ジョン万次郎の映画企画は、私の長年の夢でした。

私は 70 年代後半に N.Y に数年滞在する機会があり、そこで体験した異人種、異文化の中での強烈な生活体験がこの企画の原点になっています。

当時の N.Y はまだまだ日本人が少なく、覚えていったはずの英語も全く機能せず、まさに多人種が集う異国での生活の全てが手探りの連続でした。そんな暮らしの中で、ある日偶然手にした書物の中で出会ったのがジョン万次郎でした。

私が渡米する 100 年以上前に、万次郎は数奇な運命に導かれるように米国の地に降り立った。当然体験したであろう未知の世界での困惑の数々。ほんの少しの彼と私の類似体験が、彼の世界にのめり込むきっかけでした。与えられた環境の中でしか生きる術はなく、その中で “ 諦めること ” は死を意味したであろう状況の中で生き抜いた万次郎。

海洋に関する先駆的な学問を学び、奇跡的に帰国を果たし、幕末の開国に重要な役割を果たした彼の人生は、私にとって衝撃的なロマンでした。それ以来、彼の生涯の映画化は私のライフワークになりました。

映画脚本「Manjiro&William ジョン万次郎の生涯」が出版

当時、私のジョン万企画を知っていた知人を介して、脚本家の神波史男氏（当時 70 才）と出会った事がこの企画が微かに動き出すタイミングでした。

神波氏は故深作欣二監督と組み、過去に「火宅の人」「華の乱」などの大作映画の脚本を書き、日本映画のトップに立った脚本家です。神波氏にこの映画の構想を相談した時に、脚本家としての創作意欲が刺激されたようで、「ヒデさん、一緒にやろうよ!」と脚本依頼を快く引き受けてくれました。

早々に旅支度をし、万次郎の足跡を求めてマサチューセッツ州プロビデンス空港に降り、レンタカーで数時間かけフェアヘブンに移動し脚本作りが始まりました。2004 年の 9 月の事です。途中から、この脚本に興味をもったハリウッド在住の映画プロデューサー・John Daly 氏（当時 69 才）が加わり完成させたのがこの脚本です。Daly 氏は「ラストエンペラー」「プラトーン」「サルバドル」など、3 度アカデミー賞受賞作品に関わった敏腕プロデューサーです。

脚本は米国での万次郎と船長の家族との絆をベースに構成され、完成度の高い脚本に仕上がりました。しかし、不運にもこの映画をプロデュースする予定だった Daly 氏が、2008 年に急に病死した事で企画の休止をやむなくされました。それ以来、映画は実現することなく今

日に至っています。しかも昨年 3 月には、一緒に脚本作りをした神波氏も映画の撮影を目にすることなく病気で他界してしまいました。

生前、会うたびに“僕の目の黒いうちに何とかしてよ、ヒデちゃん”と、はにかんだような表情で映画の実現を語りかけてくる神波氏の顔が脳裏をよぎります。

本来、映画撮影前の脚本の出版はタブーです。しかし、あえてタブーに挑んでみました。脚本を読んだ読者に、1 人でも多く応援してもらえればという想いからです。

この映画のテーマは“チャレンジ”です。“最後まで諦めない心”、“未知の世界に挑んでいく好奇心”は、今の日本の若者に送りたい重要なメッセージです。日米関係の原点を語る上でも、今、最も日米に必要な映画だと確信しています。映画の実現に向け、亡くなった 2 人の想いと共に静かに再度動きはじめています。脚本の出版（リーブル出版）にあたって、土佐ジョン万会の皆様の御協力に深く感謝致します。

ジョン万次郎の生涯
脚本 / 神波史男・松山賢二郎
アメリカ作家協会登録脚本

「ウィリアムは、俺を養子にすると……ウィリアムを裏切るわけにはいかない。彼の為にも……そして君の為にも……俺はここに残る。」
「(強く) ダメよ! やめて!」
「自分を押し殺して私たちのために生きるなんて、そんなことして欲しくなんか無い!」
「でも俺は……君となら……」

映画「Manjiro」
公式ホームページ
<http://manjiro.jon.com/>

エンターテインメントで
完成度の高い脚本を単行本化。
キミは知っているだろうか……?
万次郎の切なく淡い恋を!
帰国の費用を稼いだ金銭の事を!

米国文化を民間人としていち早く日本に紹介し、
日米友好の礎を築いたジョン万次郎の活躍と
スピリットが、これからの日本を担う人たちに伝わり、
受け継がれていくことを期待する。
目録 原明 / 監修 加藤純樹 監修委員 (撮影 / 音楽)

脚本：神波史男 / 松山賢二郎
神波史男氏は深作欣二監督の名作「華の乱」(主演・宮本小百合、松田優作)、「火宅の人」(主演・桂木洋子、石田あゆみ)などの脚本を手掛け、他に「おろしや国酔夢譚」(佐藤純彌監督・主演・桂木洋子)などの代表作がある。
脚本協力：John Daly (映画プロデューサー)
「ラストエンペラー」「プラトーン」「ターミネーター」「サルバドル」などで、
3度のアカデミー賞受賞作品のプロデューサー。

2月10日(日)～全国有名書店にて販売開始 ¥1,000(税別)
発行 / 内閣府 (公益社団法人草の根)
〒780-0952 高知市東区3-7-108-843-6007-tosa@johnmng.org
発売元 / NPO法人草の根の会 (<http://www.npo-ryoma.com/>)
〒780-0964 高知市東区2-17-55-090-5146-0258-info@npo-ryoma.com
印刷協力 / 株式会社 リーブル出版 (<http://www.dreamoffin.com/>)
販売協力 / リーブル出版 (<http://live.jp/>)
〒780-8040 高知市東区2126-1-086-837-1250-info@live.jp

本のチラシ

「Manjiro & William ジョン万次郎の生涯」は定価 1000 円 (税込)。
全国の有名書店、また、TSUTAYA や楽天などのオンライン書店などからお買い求めいただけます。

与謝野 CIE 副会長、マルヤマ CIE-US 理事が「春の叙勲」で受章！

今年の春の叙勲で、与謝野馨 CIE 副会長が旭日大綬章、ならびにポール・クニアキ・マルヤマ CIE-US 理事（米国コロラド州在住）が旭日小綬章を受章しました。

与謝野副会長は、財務大臣、また長年の国会議員としての功績が認められたものです。マルヤマ理事は、過去 2 回の南コロラドでの日米草の根交流サミット大会のコーディネーター、南コロラド日米協会会長としての日米交流への貢献、CIE-US の創設、またコロラド・スプリングスと富士吉田市の姉妹都市交流活動など、長年の日米交流への尽力が高く評されました。



与謝野 CIE 副会長



ポール・クニアキ・マルヤマ CIE-US 理事

榎原 CIE 理事とレンジャーズ、ダラスで受賞！

榎原稔 CIE 理事とテキサス・レンジャーズは、4月30日、2012年の草の根サミットが開催されたテキサス州において、「ダラス・フォートワース日米協会」より日米関係の向上に貢献したとして賞を受けました。

榎原 CIE 理事は、「サン・アンド・スター・レガシー賞」を受賞。同賞は、日米関係向上に貢献した人物に贈られるもので、「サン」は日章旗、「スター」は「一つ星」のテキサス州旗を表現しています。

一方、テキサス・レンジャーズは「ブリッジ・トゥ・フレンドシップ賞」を受賞。

昨年の日米草の根交流サミットを通して、野球を通じた日米の市民交流に貢献したことが受賞理由となりました。4月30日にダラス市内で開催された受賞パーティーには、同じく CIE の田口俊明理事が「名誉主催者」として招待され、受賞者を紹介しました。受賞パーティーは、340人が出席する盛会となりました。

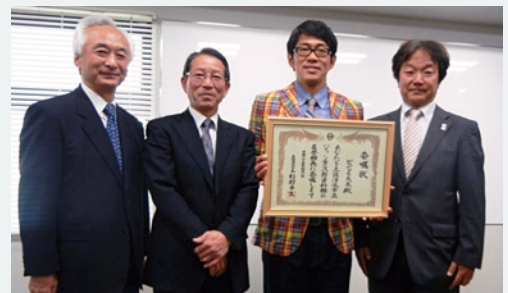


[左から]
ジョン・スティック在ダラス名誉総領事、
ジム・サンドバーク/テキサス・レンジャーズ上席副理事長、
榎原稔 CIE 理事、
田口俊明 CIE 理事、
ドン・ケーシー/ダラス・フォートワース日米協会理事長

ビビる大木さん、ジョン万資料館名誉館長に！

歴史好きでジョン万次郎大ファンのお笑いタレント、ビビる大木さんが、土佐清水市のジョン万次郎資料館の名誉館長に就任し、その委嘱状の贈呈式が4月23日に東京で行われました。贈呈式のため、土佐清水市からは吉村博文副市長、同市産業振興課の職員、ジョン万次郎資料館職員らが上京。また、CIEからも吉國譲治専務理事らが参加しました。

大木さんは、「ジョン万次郎のことをもっと知ってもらいたいし、万次郎のドラマティックな人生を広めていきたい。自分がテレビやラジオ、新聞を通して発信することが反響をよび、人々の興味を広げるきっかけになる」と今後の名誉館長としての抱負を語りました。



[左から]
吉國 CIE 専務理事、吉村博文土佐清水副市長、
ビビるさん、鎌倉昭浩高知県東京事務所副所長



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事

ニュース! ジョン・ハウランド号の航海日誌を小沢会長がCIEに寄贈、高知で展示も

1841年、鳥島で漂流生活をおくっていたジョン万次郎ら5人を救出したアメリカの捕鯨船「ジョン・ハウランド号」に乗船していた若き水夫、ライマン・ホームズが書いた航海日誌が、所有者の小沢一郎CIE会長から、財団であるCIEに去る3月12日に寄贈されました。

この航海日誌は、5月18日から7月19日まで高知県立坂本竜馬記念館で開催されている「『漂異紀略』に見る万次郎の世界展」に貸し出されており、多くの方々から感動を持ってご覧いただいています。



小沢会長(左)から「ライマン・ホームズの航海日誌」を受け取る渡邊理事長

事務局だより 新専務理事から挨拶



吉國専務
—大遷宮を終えたばかりの出雲大社にて

4月1日より、専務理事に就任いたしました吉國譲治です。

事務局は、吉國(専務理事)、轟木(事務局長)、安藤(事業部)、松田(総務部)の体制となりましたので、よろしくお願いいたします。

さて、予想よりも多少時間を要しましたが、4月1日付で当財団は「公益財団法人」に認定、移行いたしました。

これからは、「公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター」です。元々財団法人名称としては最長を誇っていた(?)ところ、さらに「公益」の二文字が増えることになりました。

この公益財団法人への移行を見届けられるように、2005月より8年以上にわたり、持ち前の行動力で財団運営に手腕を発揮され、財団活動の発展の大きな支えとして活躍されてきた、貴田昭一専務理事が3月末で退任されました。長い間本当にありがとうございました。

日米草の根交流サミットしまね大会まであとひと月を切り、事務局もあわただしさを増していますが、現地関係者の皆さまのご協力を得て、すべての参加者に満足していただける内容となるよう全力を傾注してまいります。

しまね大会、ご期待ください!!

平成24年度寄附協賛企業一覧

アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／曙ブレーキ工業株式会社／アサヒグループホールディングス株式会社／
NTTコミュニケーションズ株式会社／キッコーマン株式会社／株式会社ジェイテクト／全日本空輸株式会社／
株式会社大庄／中部電力株式会社／株式会社デンソー／東京海上日動火災保険株式会社／豊田合成株式会社／
トヨタ自動車株式会社／株式会社豊田自動織機／豊田通商株式会社／トヨタファイナンシャルサービス株式会社／
トヨタ紡織株式会社／株式会社永谷園／株式会社ニフコ／日本郵船株式会社／日本ユニシス株式会社／
パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／株式会社日向農卵／三井住友海上火災保険株式会社／
三菱商事株式会社／三菱食品株式会社／明治安田生命保険相互会社／矢崎総業株式会社